

背景・課題

宇陀市には、農業法人グループや企業出資法人などを中心に、県全体の有機JAS認証農家数の45%が存在しており、特に伊那佐東部地区では、奈良県が進める「特定農業振興ゾーン」制度を活用した軟弱野菜主体の有機農業産地づくりに取り組んでいる。病虫害の防疫技術による生産安定と圃場周辺の除草労力の省力化が生産上の課題。

成果目標と達成状況

ハウレンソウ、小松菜等の栽培面積4.4ha（令和4年度）のうち、グリーンな栽培体系の取組面積を2.2ha（令和9年度）に拡大することを目標としている。

奈良県宇陀市伊那佐東部地区グリーンサポート協議会では、令和4年度に施設軟弱野菜において、有機農業を進めるため、UVカットフィルムと0.6mm防虫ネットの併用による害虫被害低減及びリモコン草刈り機による圃場周辺の除草の省力化を図る実証を実施。



宇陀市

構 成 員

生産者、奈良県東部農林振興事務所、宇陀市

品 目

野菜

栽培マニュアル・産地戦略

農業振興課/奈良県
公式ホームページ



<https://www.pref.nara.jp/28752.htm>

取組の成果

- 害虫防除では、キスジノミハムシによる被害・食害が低減。
- リモコン草刈り機により、除草作業時間を1/3に縮減。



実証の状況



リモコン草刈り機による除草作業

普及に向けた取組

令和5年度は、普及組織と生産者、宇陀市が連携し、研修会や巡回指導時、特にフィルムの張替時期や新規就農者の就農開始時には重点的に、実証した技術マニュアル及びUVカットフィルム、0.6mm防虫ネットの効果を説明し、取組面積の拡大を目指している。